

【1. 概要】

- ・イチゴにおいて天敵を利用したハダニ類等の効果的な防除体系を実施
- ・地区栽培面積約5haのうち、IPM実践面積は約4ha(平成25年度比200%)
- ・研修資料を作成し、地区での講習会を実施(4回/年)



図1.地区講習会風景

【2. 実践内容】

(1) 取り組みの背景、経緯

- ・病害虫の薬剤耐性・抵抗性の発達が著しく、薬剤のみの防除が困難
- ・H23 : 防除体系に基づく防除暦を作成した
- ・H25~ : 静岡県IPM実践指標モデルの目標値を設定して実証した
- ・特に、予防的防除の徹底やハダニ類に対するカブリダニ製剤と選択性農薬の併用を実施した

(2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

- ・独自のIPMマニュアル等を作成し、現地講習会等で実演(図1、2)
- ・地区を担当する普及指導センター、JA等が薬剤のローテーション散布体系を生産者に提案し、薬剤耐性・抵抗性の発達を防止
- ・天敵の活用により薬剤(化学農薬)の散布労力が減少

【3. IPMの推進による効果、得られた経験】

- ・IPM実践指標値(31点満点) H25:14 → H26:20 → H27:24
- ・IPM実践面積(ha) H25: 2 → H26: 3 → H27: 4
- ・今後の課題として、天敵導入のタイミングの精査と病害虫を発生させない環境管理が必要

イチゴ IPM マニュアル

病害虫名	防除のコツ	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
生育管理	生育管理 ※生育管理は、健全なイチゴの生育を促すために重要です。適切な水やり、肥料の散布、摘果のタイミングを把握し、健全な生育を促すようにします。														
根そ病	根そ病 ※根そ病は、イチゴの生育を阻害する重要な病害です。適切な水やり、肥料の散布、摘果のタイミングを把握し、健全な生育を促すようにします。														
灰色かび病	灰色かび病 ※灰色かび病は、イチゴの生育を阻害する重要な病害です。適切な水やり、肥料の散布、摘果のタイミングを把握し、健全な生育を促すようにします。														
うどんこ病	うどんこ病 ※うどんこ病は、イチゴの生育を阻害する重要な病害です。適切な水やり、肥料の散布、摘果のタイミングを把握し、健全な生育を促すようにします。														
アブラムシ	アブラムシ ※アブラムシは、イチゴの生育を阻害する重要な病害です。適切な水やり、肥料の散布、摘果のタイミングを把握し、健全な生育を促すようにします。														
ハダニ類	ハダニ類 ※ハダニ類は、イチゴの生育を阻害する重要な病害です。適切な水やり、肥料の散布、摘果のタイミングを把握し、健全な生育を促すようにします。														
ハスモンヨトウ	ハスモンヨトウ ※ハスモンヨトウは、イチゴの生育を阻害する重要な病害です。適切な水やり、肥料の散布、摘果のタイミングを把握し、健全な生育を促すようにします。														
アザミウマ	アザミウマ ※アザミウマは、イチゴの生育を阻害する重要な病害です。適切な水やり、肥料の散布、摘果のタイミングを把握し、健全な生育を促すようにします。														

※防除薬剤については、JA(農業協同組合)や静岡県農業技術センター(静岡県農業技術センター)に相談してください。 ※散布時期はあくまで目安です。発生状況に留意して判断してください。
※天敵導入後は天敵への影響が少ない剤を使用してください。(殺菌剤、殺虫剤、エコビオは直接かかれれば影響あり) (スピノース、ネオタランは若干影響あり)
※天敵導入後の効果は天敵への影響が少ない剤を使用してください。(殺菌剤、殺虫剤、エコビオは直接かかれれば影響あり) (スピノース、ネオタランは若干影響あり)

静岡県賀茂地区農林事務所 地域振興課 土田裕夫 文書(平成27年3月作成)

図2.地区独自のイチゴIPMマニュアル

【問い合わせ先】
経済産業部農業局地域農業課農産環境班
電話：054-221-2626